

第15回 日本在宅医学会大会 プログラム別 詳細情報

カテゴリー	ランチョンセミナー
共 催	久光製薬株式会社
タイトル	地域でのエンドオブライフを支える訪問看護
日 時	平成 25 年 3 月 31 日 12 : 10~13 : 10
会 場	真珠の間 A
演 者	ケアーズ白十字訪問看護ステーション・秋山 正子先生
座 長	ナカノ在宅医療クリニック・中野 一司先生
企画趣旨	<p>超高齢化社会を迎えた日本、その中で、殊に都市部はここ数年、これまでに類を見ない高齢化の波がやってくるといわれ、その対策にみな躍起となっている。</p> <p>国はこのような状況を鑑み、在宅医療・介護の推進に一層の力を入れ「在宅医療・介護あんしん 2012」の中に、国民の望む療養の場及び看取りの場の確保は喫緊の課題であると明記された。</p> <p>すなわち、医療の問題は、看取りを視野に入れた介護も一体化しながら考える方向に進んでいるという事である。</p> <p>老人保健法の改正で 1992 年に生まれた訪問看護ステーション制度も 20 年という歳月を経て、今、進化をしようとしている。初めから看取りに関して、取り組んできた訪問看護。そこには、がん末期患者を含めて、自宅で療養をし、人生を終えていきたいと願う人々のニーズに看護を自宅に届けるという方法で、それぞれのエンドオブライフを支えてきた。演者も、その一人、長年の訪問看護の経験から、自然な老化の過程を経てなくなる人々に関わることで得てきたことがある。</p> <p>それは、在宅での看取りは、決して、病院医療の延長ではないこと。生活の中に医療を少し加味した形で、出来るだけ医療の重装備にしない方法で、看取っていくこと。それは最後まで生きる人を家族や、地域の他職種と連携しチームで支えることに他ならない。</p> <p>そのためには、訪問看護が果たす役割は何かを含めて、地域の中で、看取りのできる街づくりにも提言していく、発信する訪問看護、そして予防にも寄与する訪問看護と視野を広げて活動していきたい。</p>